

# 民進・蓮舫体制100日 低迷どう脱却

昨年9月に民進党の新執行部が発足し、100日余りが経過した。蓮舫代表は提案路線を掲げて「自民1強」の国会に臨んだが、党の支持率は伸び悩み、党内や支持団体との不協和音も目立つ。低迷を抜け出すにはあるのか。党OBを代表して仙谷由人元官房長官と、党の政策作りにもかかわる慶応大の井手英策教授に方策を聞いた。

民進党の支持率はなぜ伸びないのか。「IT(情報技術)で大衆とコミュニケーションし、それが支持率につながる」というのは間違い。アカデミズムや経営層などとネットワークを再構築した方がいいよと言ってきたが、あまり動いていない感じがしない。政権に衆院解散で脅さ

元官房長官

仙谷 由人氏



せんごく・よしと  
46年生まれ。東大在学中に司法試験合格。菅直人内閣で官房長官。12年衆院選で落選した。

## 増税先送りNOと主張を

れ、腰を据えた取り組みができていない」「経済政策でかんかんがくがくの議論があったという話も聞かえず、羅動感もない。蓮舫さんの全閣遊説以外に何かあるのか。野党なんだから

裂とかいわれることを恐れずにやらないと。いいじゃないか、分裂したってどうせどこかでまたまとまるんだから」

「我々が涙をのんで引き上げを決めて選挙にも負けただけだから、2回も先送りをしたのはだめだと言っべきだった。もう少

「共産党とほどこまい」で連携すべきか。「共産党が消費税、自衛隊、天皇制の3つを認めたい。僕は意外に感じた。この人は担がれる人である。網も党名も変えてこい、つても、人を動かす人じゃないよね」

「野田佳彦前首相の幹事長起用は予想外だった。僕はトランプ氏が米大統領在任中に起ると思っている」

「政権交代は、前政権への国民の『飽き』も大きな要素だ。安倍政権の経済政策は将来世代へのツケ回しであり日本を破局に導く、と民進党は言

仙谷由人元官房長官は2004年参院選で、テレビキャスターだった蓮舫氏を政界に引き込んだ当事者の一人。井手英策慶大教授は、昨年の民進党代表選で前原誠司元外相が訴えた「全ての人が負担して受益者となる」という考え方を提唱し、党調査会で前原氏とともに政策づくりにかかわる。

## 提案路線なお遠く

と、党執行部や個々の議員がかかわる党外人脈の薄さだ。組で、政策の財源について問の活力や知恵がなければ、われ「財源は生み出せるもの政権与党に対抗する説得力ある政策は生まれてこない。税金改革などの具体案を示す民進党は次期衆院選の公約で示す「経済政策」の原案を昨年12月にまとめた。子育てと女性活躍の政策を柱としたが、超高齢社会で増え続ける社会保障費をどうまかなうかなど、全体としての国家像は示しきれずにいる。

(恩地洋介)